

# 日本高齢期運動連絡会ニュース

発行責任者 武市 和彦 発行所 日本高齢期運動連絡会  
〒164-0011 東京都中野区中央5-48-5 シャンポール中野504号  
TEL/fax03-3384-6654 E-Mail nihonkouren@nifty.com  
http://www.nihonkouren.jp

発行：隔月1回  
2018年12月15日  
No.334



「止めよう！9条改憲発議 医療費2割負担」  
第32回日本高齢者大会in熱海でのアピール行動 =11.25ニューフジヤホテル「麗峰」

まちから村からの連帯で 一人ぼっちの高齢者をなくそう  
守ろう憲法 すべての世代の連帯で つくろう安心して住み続けられるまち  
「第32回日本高齢者大会in熱海」に延べ3500人  
第32回日本高齢者大会in熱海中央実行委員会

「まちから村からの連帯でひとりぼっちの高齢者をなくそう」「守ろう憲法 すべての世代の連帯で つくろう安心して住み続けられるまち」をテーマに、第32回日本高齢者大会in熱海は、11月25・26日の二日間にわたって開かれました。

1日目の25日は、ニューフジヤホテル「麗峰」で全体会。  
司会は、全日本年金者組合東京都本部府中



支部の佐藤祐子さんと東京保健生活協同組合の山口弘樹さん。

静岡県と全国から集まった歓迎のうたごえ合唱団によるオープニング合唱に始まり、藤末衛中央実行委員長が、「より一層地域でのつながりが大切。今日と明日、憲法・沖縄・社会保障・まちづくりなど活動のヒントを学び、交流しましょう。」とあいさつしました。



藤末衛 中央実行委員長

ブロックごとの参加者のエールに続き、東京保健生協の保住愛さんからカンパの訴え。

そして今年の文化行事は、静岡県立熱海高校のエイサー部の皆さんによるエイサー。力づよい演奏に、「感動しました」「頼もしいと感じた」「素晴らしかった」「孫と重なった」などなどたくさんの称賛の感想が届いています。



記念講演は同志社大学大学院教授 浜矩子さん。大会前から、「ぜひ浜さんのお話を聞きたい」という問い合わせも多く、楽しみにしていたという声もたくさん寄せられていました。

続いて、武市和彦・中央実行委員会事務局長より基調報告があり、その後沖縄医療生協岸本清理事より特別発言、基地は経済発展の最大の阻害要因であるという強い訴えがありました。

小嶋満彦日本高連代表委員から次回開催地の発表があり、2019年、第33回日本高齢者大会の開催地となった、福島県の斎藤直哉さんからの発言がありました。



沖縄代表 岸本さん



福島代表 斎藤さん

大会旗は林泰則代表委員より福島県に引継がれました。



大会旗は次回開催地福島へ

来賓あいさつは、日本共産党参議院議員の武田良介さん。力強い連帯の挨拶をいただきました。



日本共産党参議院議員  
武田良介さん

新日本婦人の会・山元美奈子さんから大会決議の提案があり、満場の拍手で採択されました。

いのちと暮らし、平和を守るためのアピール行動。「止めよう！改憲発議・後期高齢者医療2割負担」のプラカードを掲げました。

日本高齢期運動連絡会代表委員の松本弘道さんの閉会のあいさつで全体会は終了しました。

1日目は、夕食後の5つの夜の企画にも大勢の参加がありました。

2日目は、ニューフジヤ、大野屋、起雲閣、中央公民館、総合福祉センターを会場に、合わせて28の学習講座・分科会・移動分科会が行われました。



「人と人との絆はやみのなかで輝く希望」

現在、世界経済を大いにゆれ動かすものが3つあります。

キーワードは「3つの綱引き」です。ひとつめの綱引きは「光と闇」2つの勢力の綱引きについてです。第一次世界大戦後に現れた全体主義・排外的な思想は、当時の若者の多くの支持を集めました。いま安倍首相は戦後レジームからの脱却を訴え、戦前の枠組みの復活をすすめようとしています。ふたたび帝国主義を復活させようとする勢力と、基本的人権、自由、同志的絆を大切に

する勢力との綱引きが存在しています。2つめの綱引きは「グローバル対反グローバル」の綱引きです。今日日本だけでなく世界に広がる格差と貧困の深化は、グローバル化の影響と考えられています。ここで注意が必要なことは、グローバル化に反対の立場をとることは、全体主義排外的な勢力との親和性が高まる恐れがあることです。グローバル化をうまくハンドリングすれば、1人ひとりが輝く時代にすることが可能です。グローバル化の時代とは、誰も一人では生きられない、隣人同士、隣国同士が強く関連しお互いを支え合う世界です。「自己責任」「一国主義」を強く推し進めることは、反グローバル化を推し進めます。私たちは今こそ日本国憲法前文からグローバル時代にどのように生きていくか、改めて学ぶことが求められています。3つめの綱引きは「愛国と愛僕」との綱引きです。本当の愛国者と偽物の愛国者を見分けることはできるでしょうか。できます。偽りの愛国者の特徴は2つあります。一つは「強い日本をとりもどす」など聞きたいことを言う人、耳障りのいいことを言ってくれる人です。2つめは、敵が誰かを教えてくれる人、悪いのは高齢者——悪いのは外国人等誰かをハッキリと悪者だと明言する人です。このような人を見たり聞いたりしたら注意が必要です。ここでみなさんに、新約聖書「ヨハネによる福音書」の冒頭部分を紹介します。初めに、ことばがあったことばは神とともにあった。ことばは神であった。(中略)光はやみのなかに輝いている。やみはこれに打ち勝たなかった。本日は「光の勢力と闇の勢力」の「3つの綱引き」についてお話いただきました。人と人との結びつきをひろげようとする勢力が必ず勝利することを申し上げ、私からの講演とさせていただきます

(記念講演要旨) 大会速報2018年11月26日より

第32回日本高齢者大会in熱海 大会決議

第32回日本高齢者大会は中央実行委員会主催大会として2006年に続き2回目の開催となる熱海での開催となりました。「守ろう憲法 すべての世代の連帯で つくろう安心して住み続けられるまち」をサブスローガンに、全国からのべ3500人が集いました。前回大会開催予定だった沖縄での9月の県知事選挙で、辺野古新基地反対を掲げてたたかった玉城デニー候補が、圧勝した後の大会となり、この歴史的勝利を喜ぶとともに、来年の参議院選挙で「沖縄のように闘えば勝利することができる」との確信と勇気をもつことができた大会となりました。一方、安倍首相は、朝鮮半島をめぐる対決から

対話への歴史的な転換が起こった状況の下でも、憲法9条改憲と、「戦争する国づくり」を進めることを執拗に迫り、今秋の臨時国会への自民党憲法改定草案の提案を行おうとしています。改憲案の国会への上程は絶対に阻止しようではありませんか。

更に安倍首相は自民党総裁選挙で「全世代型の社会保障制度へと大きく改革を行う」と述べ、その財源として消費税増税を来年10月から実施すると繰り返し表明しました。しかし、今後社会保障予算の伸びを、「自然増」すら認めず抑え込もうとしています。これまでも、医療、介護の負担を増やし、年金や生活保護費の連続削減で高齢者の生活は深刻となっています。生活保護を利用する高齢者世帯は増え続け、今や生活保護利用世帯に占める高齢者世帯の割合は約54%をしめており、高齢

者の貧困化がすすんでいます。

わたしたちが取り組んでいる後期高齢者医療費自己負担2割への引き上げに反対する署名行動の中でも、「所得の26%もの保険料負担となり生活できない」「75歳になった途端2倍半の保険料に!」等切実な声が寄せられており、制度そのものの廃止を求める声も多く寄せられています。

私たちは、第32回日本高齢者大会in熱海において、将来を担う若者をはじめとするすべての世代の方々と連帯して、以下の要望を国に求めると共に行動をよびかけます。

1. 戦争する国づくりにすすむ憲法9条改憲案の国会への上程を阻止します。そのために30000万署名を集めきります。
2. 後期高齢者の医療費窓口自己負担2割へ引き上げに反対する署名を集め、すべての都道府県、区市町村議会で国に中止を求める請願行動を行います。また、2.1集会を成功させます。

3. 消費税10%増税の中止を求めます。
  4. 介護保険料の引き上げや利用制限をやめ、国民健康保険料の引き下げ、窓口負担の軽減を要求します。
  5. 年金削減をやめ、最低保障年金制度確立を求めます。生活保護基準の引き下げに反対します。
  6. オール沖縄のたたかいに連帯し、辺野古新基地建設中止、普天間基地の無条件返還と米軍基地のない平和な沖縄をめざします。
  7. 「核兵器のない世界」をめざします。政府が「核兵器禁止条約」に調印し、被爆国にふさわしい役割を果たすことを求めます。
  8. 来年の参議院選挙で「オール沖縄」のたたかいに学び、要求での幅広い共闘をつくり、市民と野党の共闘を発展させ自民党、公明党とその補完勢力を少数に追い込みます。
- 以上決議します。

2018年11月25日 第32回日本高齢者大会in熱海

## 後期高齢者医療負担2割化反対・高齢者予算要求 年末厚労省前座り込み行動 12/12~14

日本高齢期運動連絡会・東京都老後保障推進協会



日本高齢期運動連絡会と東京都老後保障推進協会は、12月12~14日に「後期高齢者医療窓口負担2割化反対・高齢者のいのちを守る平成31年度予算要求 年末座り込み行動」を行いました。場所は例年と同じ厚労省・人事院前交差点です。3日間で延べ100人の参加がありました。

12日正午から開会の集いを行い、城田都老協会長があいさつ、3日間頑張ろうと訴えま

した。（昨年から泊まり込みは行わず、朝は8時開始・夜は午後7時に終了）

1日目は暖かい日でしたが、2日目の午後は雨が降り、3日目は冷たい強風の中の座り込みでした。初日には初めて全国保険医団体連合会（保団連）の住江会長が参加され共に患者負担増に反対する決意を表明されました。2日目の昼休み時間にはトランペット演奏の松平晃さんが激励に駆けつけ、素晴らしい音

色を官庁街に響かせ、社会保障の充実を訴えました。



道行く方々からも、切実な声が寄せられ、「いつから2割になるのですか」「困ります。頑張ってください」「日本には民主主義が無いです」と署名をしていただきました。日本共産党参議院議員の小池晃さんはじめ14人の国会議員さんが激励のあいさつ、座り込みにも参加していただきました。又、初日には新潟県高齢期運動連絡会の代表、最終日には青森県高齢期運動連絡会の代表も参加されリンゴの差し入れがありました。

14日11時から閉会の集いを行い、支援カンパは90920円に上り、この場での署名70筆と報告されました。本当にありがとうございました。

カンパ・ご挨拶いただいた団体は、中央社保協・年金者組合中央本部・全国生活と健康を守る会連合会・保団連・消費税をなくす全国の会・建交労全国事業団高齢者部会・同東京部会・東京社保協・東京民医連・東京自治労連・都退協幹事会・高齢期運動サポートセンターです。

座り込み2日目の13日午後1時半から、後期高齢者医療窓口2割化を止めるよう求める厚労省要請を行い、小嶋代表委員、武市事務局長ほか地域・団体の代表10人が要請。担当係長が対応しましたが、誠意ある回答はありませんでした。参加者は年金は削られ、消費税は上がるという高齢者の実状を訴え、「ひとこと要請」の束を渡し、必ず厚生労働大臣に届けるよう要請しました。

## 12.14 日本高齢者大会中央実行委員会開く 第32回熱海大会実行委の解散、第33回福島大会実行委の発足確認 日本高齢者大会中央実行委員会



12月14日午後1時半より、第32回日本高齢者大会in熱海第3回中央実行委員会総会と第33回日本高齢者大会in福島第1回中央委実行委員会総会が行われました。総会には16都府県高連の代表と、中央団体、中央実行委員会事務局等30人が参加しました。

小嶋満彦代表委員の開会あいさつで熱海大会の取り組みへの各県の奮闘に対してお礼があり、引き続き福島大会と成功と後期高齢者医療窓口2割化反対など諸闘争に頑張ろうと述べました。議長に東京高連副会長の三好さんが選出され、武市事務局長の報告がありまし

た。報告のうち大会概要は以下の通りです。

### <報告概要>

#### ☆大会の概要

参加者数 延べ3,500人

(実行委員、講師助言者・出演者・要員含む)

1日目 25日 全体会 1,777名

夜の講座・交流会 663名

2日目 26日 学習講座・分科会 1,607名

カンパ 842,027円

参加者感想文 315 通

参加45都道府県 未参加2県 佐賀・熊本

#### ☆全体会について

①記念講演 浜矩子さんの講演は全体的に大好評でした。

“人と人との絆は闇の中で輝く希望”は参加者に勇気、元気を与えました

②文化企画 オープニングのうたごえは好評でした

高校生の”エイサー”は沖縄の踊りであること。若者が元気よく演じている姿に多くの参加者が感動しました

③進行時間 終了時間は時間通りに終了

3時間休憩なしで座りつづけるのはイスの関係でも困難、途中休憩の要望が多く寄せられました。記念講演までの間は文化行事などもありテンポよくは進行できたが、その後報告が続き間延びしてしまった

④会場 玄関から全体会場まで複雑で分かりにくかった。音響悪く聞き取りにくかった。また、全体にせまくて窮屈でした

#### ☆講座・分科会 夜の企画

学習講座の内容は情勢にみあったもので概ね高評価でした

分科会はテーマに沿った実践報告や意見交換等を行うべきですが、学習講座のような分科会もありました。今後改善が必要です。

夜の企画では映画と遺品整理の講座へ多く参加がありました

#### ☆会場設営等について

起雲閣は、会場使用開始時間と講座分科会の開始時間が一緒に準備の時間が無かったので会場設営が大変でした。

移動分科会東富士演習場見学コースが時間どおりに進みませんでした

函南ブナ原生林コースのトレッキングの案内体制が不十分でした。参加者への事前の諸注意が十分ではありませんでした

報告を受け、多くの県代表から発言があり、初参加者や30代の参加者など参加して確信になったこと、運営上のいくつかの問題について発言がありました。

事務局長まとめの後、報告を承認し、最後に熱海大会実行委員会の解散を確認しました。

休憩後、第33回日本高齢者大会in福島・中央実行委員会の発足を確認。武市事務局長の

提案、福島県実行委員会橋本憲幸事務局長からの提案があり、討論後提案を確認しました。最後に寺崎事務局次長が閉会あいさつを行い、議事を終了しました。

#### <福島大会概要>

1. 参加目標 2日間延べ 4000名

東北地域800 その他 1200

2. 大会日程と会場

9月25日(水) 午後1時半～4時半

全体会 磐梯熱海温泉

郡山市立ユラックス熱海(3000人収容)

9月26日(木) 午前8時半(予定)～12時

学習講座・分科会

磐梯熱海温泉ホテル旅館内会議室

被災地見学の移動分科会

8時出発・15時郡山駅帰着

9/25の宿泊は磐梯熱海温泉旅館ホテルとします。磐梯熱海旅館組合(観光協会)を宿泊窓口とします。

3. 体制

中央実行委員会 委員長 金子民夫

全日本年金者組合中央本部委員長

事務局長 武市和彦

日本高齢期運動連絡会事務局長

現地実行委員会 委員長 斎藤直哉

福島県高齢期運動連絡会代表委員

事務局長 橋本憲幸

福島県高齢期運動連絡会事務局長

4. 大会スケジュール案

1月 大会サブスローガン 全体講演者決定

2月 企画・講座・分科会会場決定

3月 講師・助言者決定

4月 ポスター・大会案内リーフレット作成

5月 総会 第2回中央実行委員会

6月 大会しおり配布

7月 参加組織

8月 移動分科会の申し込み

9月 大会開催

## 10. 16 「第17回宮崎県高齢者大会」に110人

### 宮崎県高齢期運動連絡会

宮崎県高齢期運動連絡会は10月16日(火)、宮崎市民プラザで『第17回宮崎県高齢者大会』

が開催し、県内から110名が参加しました。午前の部は「消費者問題への対応について」



宮崎特攻隊語り部の安田郁子氏

「宮崎市版エンディングノート作成講座」  
「公的年金制度に関わる改善要求と年金裁判  
について」、と3つの分科会を行いました。

午後の部の記念講演では、宮崎特攻隊語り部の安田郁子氏が『モスグリーン青春～平和を考える～』と題し、「戦争という過酷な時代を経験した今はすべてが楽しい。平和を分かるのは戦争を体験した人です。“敗戦”と“終戦”という言葉がありますが、敗戦は日本が負けたこと、終戦は戦争が終わって平和になったことです。敗戦の言葉を使わず、終戦の言葉を用いてみんなを堕落させました。終戦はごまかしです。敗戦と言わなければなりません。平和を大事にしてもらわないと何にもなりません。命の時間を無駄にしてもらいたくないです」と、ご自身の体験を踏まえながら講演されました。

(宮崎県高齢期運動連絡会事務局 田中裕人)

## 11.23 「第20回青森県高齢者大会」に423人参加

青森県高齢期運動連絡会



青森県高齢期運動連絡会は11月23日、青森市のリンクステーションホール青森で、「第20回青森県高齢者大会」を開催しました。

前日までの参加予定者は404名となっていて、初めて目標の400名を突破することはわかっていました。ところが、いざ当日フタを開けてみると、423名の参加ということで、午前中の会場は座るイスが足りなくなって立ち見の人も出るという過去に例のない大盛況の大会となりました。

要因として考えられるのは、これまで目標を下回っていた津軽保健生協からの参加者が目標の80名を超えたことや、遠方の八戸市からの参加者が増えたことが挙げられます。ま

た、何といたっても記念講演の講師のネームバリューが高かったことが挙げられるでしょう。

今回、その記念講演をお願いしたのは、東京新聞社会部記者 望月衣塑子氏で、演題は「メディアの使命、あるべき姿」でした。

最初に本人の自己紹介を多少した後は、本人の独壇場で、昨年の菅官房長官との記者会見会場でのやりとりを彷彿とさせるような身振り手振りでステージ上を動き回ってのエネルギーギッシュなお話は真に迫るものがあり、またたく間に与えられた時間の1時間30分が過ぎていました。

午後は、学習講座「医療・介護のいまとこれから」と分科会「最近の葬儀、お墓事情」

に分かれて、それぞれ有意義に過ごしたことを報告いたします。

また、今回は20回目の記念大会ということ

で、日本高齢期運動連絡会から「お祝いのメッセージ」をいただき誠に有難うございました。

(青森県高齢期運動連絡会会長 二川原 一)



事務局よりご案内

2019年

## 2. 1高齢者中央集会&国会議員要請行動

署名を全国から持ち寄り参加ください

2019年

**2月1日 金** 10:30-15:00

衆議院議第一議員会館 大会議室

(資料代 300円)

中央集会

10:30~12:00

開会 国会情勢報告(国会議員に要請中)

学習「全世代型社会保障改革の正体は」

講師：石倉康次さん(総合社会福祉研究所理事長)



第二部

12:00~14:00

国会議員要請行動

14:15~15:00

要請行動報告集会

### 2.1中央集会とは

2.1集会は、老人医療無料制度が廃止された1983年から毎年開催されています。老人福祉法の精神が放棄された2月1日を記憶に刻み、その時々の政策・運動課題の学習や要請行動に取り組んできました

主催団体 中央社会保障推進協議会・全日本年金者組合・日本高齢期運動連絡会